

平成30年度第2回 感染症発生動向調査部会  
議事要旨

1 日 時 平成30年5月16日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長）  
大西 秀典（岐阜大学医学部附属病院 新生児集中治療部 准教授）  
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 講師）  
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長）  
和泉 孝治（岐阜県産婦人科医会）  
石山 俊次（石山泌尿器科皮膚科）  
オブザーバー : 川部 京子（岐阜市保健所地域保健課 感染症対策係長）  
事 務 局 : 居波 由紀子（保健医療課 感染症対策係長）  
上津 ひろな（保健医療課 主任技師）  
田村 直彦（保健環境研究所 疫学情報部長）  
酢谷 奈津（保健環境研究所 専門研究員）

4 議 題 （進行：澤田委員）

- (1) 2018年第14週～第17週、4月の感染症発生動向について
- (2) その他情報提供

5 議事要旨

【2018年第14週～第17週、4月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの報告と委員のコメントについては資料のとおり。  
(委員からのその他のコメント等)
- ・梅毒について、医師の届出義務がまだ周知されていない可能性がある。また、性器ヘルペスウイルス感染症については、報告対象外である再発の患者も報告されている可能性がある。
- ・尖圭コンジローマのHPVワクチン導入の影響については、統計的なデータはまだ出ていない。ただし、子宮頸がんについては、2価ワクチンを導入しているオーストラリアで4割の減少がみられている。国内ではHPVワクチンの積極的勧奨が差し控えられて5年になり、数年後に子宮頸がん発症者が増加することが懸念されている。

【その他情報提供】

- ・事務局（保健環境研究所）からSTD定点の患者報告の現状について情報提供
- ・県内のSTD定点は、産婦人科3、泌尿器科8、皮膚科4であり、婦人科系の割合が低い。そのた

め、全国データと比較すると女性の患者報告数が少ない。

- ・また、医療機関によって患者報告数にかなりの差がある。

(委員からのコメント等)

- ・患者発生の現状をより正確に把握するためには定点の変更を考えるべきであり、少なくとも患者報告のない定点については変更すべきである。
- ・定点を変更することにより、患者報告数が急増し、これまでのデータとの比較ができなくなることも予想される。
- ・県としてサーベイランスの目的をどこに置くかが問題であるが、施策に活かすのであれば、より正確に実態を把握できるように定点を選定するべきではないか。

→ (事務局 保健医療課) いただいた意見を持ち帰り、今後検討したい。

- ・事務局 (保健医療課) から下記感染症関連通知等について情報提供

- ・「結核医療の基準」の一部改正について
- ・高齢者における結核発病患者の早期発見対策について
- ・日本 HTLV -1 学会登録医療機関の設置について
- ・「急性弛緩性麻痺を認める疾患のサーベイランス・診断・検査・治療に関する手引き」の公表について
- ・エボラ出血熱に係る注意喚起について
- ・麻しんに関する注意喚起等について